

視察調査報告書

委員会名	福祉病院委員会
参加者	委員長 野本 篤 副委員長 原 紀彦 委員 大原 昌幸 鈴木 雅子 近藤 敏浩 畑尻 宣長 鈴木 英樹 築瀬 太 原田 範次
視察日時	令和6年1月22日（月）13:30～15:00
視察先・概要	神奈川県大和市 人口：244,978人 世帯数：121,089世帯 面積：27.06 k m ²
視察項目	おひとりさま支援条例について
視察概要	<p>1 おひとりさま支援条例制定の経緯、背景</p> <p>条例では、「おひとりさま」の定義を、「ひとり暮らしの市民であって、年齢を重ねたことにより他者や社会との関わりを必要とするもの」としている。</p> <p>大和市では、65歳以上の人を含む全世帯のうち、40.7%がひとり暮らし世帯。おひとりさまの社会交流を促進し、健康を維持するため、行政の支援が必要であり、条例の制定へ至った。</p> <p>2 条例の特徴</p> <p>条例では、それぞれの役割を明記している。</p> <p>(1) おひとりさまの役割 他者や社会とのつながりを持つよう心がけるものとする</p> <p>(2) 市民の役割 誰もがおひとりさまになり得ることを認識し、おひとりさまとの適切なつながりに配慮するよう心がけるものとする</p> <p>(3) 事業者の役割 市が実施するおひとりさま支援に関する施策に協力するよう努めるものとする</p> <p>基本的な施策としては、①出前講座、②窓口相談、③おひとりさまサロン、④生活お役立ちガイド・アンケートなどを実施している。</p> <p>3 制定後の効果と課題、今後の展望</p> <p>数値的な効果としては、動向を見守っている状況。出前講座等を開催する中で、おひとりさまの自立管理の必要性の認知度が上昇していることを認識している。</p> <p>おひとりさま支援は多分野にわたるため、個々の事業実施よりも、全庁的な施策をおひとりさまの観点から検証することが重要である。</p>

所 感

※視察しての感想
や岡崎市への提
言など

- ・大和市は「健康都市やまと」を標榜しており、孤立しているおひとりさまに対する外出支援を促進し「健『幸』都市やまと」実現のため、「大和市おひとりさま支援条例」を制定した。この条例は、全国初の試みであり、先進的な取組として多くの自治体が視察に訪れていると伺った。条例の特徴としては、理念条例により、おひとりさまの役割・市民の役割・事業者の役割が明確化されており、いつかは自分もなるという意識を醸成するためのものとのこと。終活支援について、本市でも相談窓口はあるものの、おひとりさまが自分の意思で相談に来るのはハードルが高いのではと考えるが、大和市においては、イベントに合わせて相談を開催するなどプッシュ型の取組などが行われている。今後、本市における福祉事業への政策提言の参考とさせていただく。
- ・高齢者も含む市民の健康増進のため、市内公園の健康遊具を拡充することで、公園の更なる活用をしていくことを提案する。また、高齢者イベントの同会場にて終活などの相談会を行うことで、相談会の参加者を増加させていくことを提案する。
- ・大和市は人口 24 万 3,000 人、面積 27 平方キロメートルのうち 1%が米軍厚木基地の滑走路となっている。人口密度は 1 平方キロメートル当たり 9,000 人であり、財政は一般会計で 849 億円、中学校区 28 あり、そこに 12 の包括支援センターがある。同市は以前、認知症対応施策として、靴に取り付ける GPS や事故を起こした場合の保険の支援など（現在本市でも導入済）の施策について本市議会福祉病院委員会で視察をした経験がある。

おひとりさま支援条例が制定され、職員が高齢者施策を実施する上で、「なぜおひとりさまを大事にするのか」という理念条例が作られたことが大切だと考える。おひとりさまは条例の中で「年齢を重ねたことにより他者や社会との関わりを必要とするもの」と定義されている。おひとりさまでもおふたりさまでも、くらしの困難は同じだという意見もあるが、まずはおひとりさまへの支援をとのことである。同市は、高齢化率は低いがおひとりさま率が高い（独り暮らし世帯は 65 歳以上の方を含む全世帯のうちの 40.7%）住みよさが一つの理由であるとのこと。

本市として参考にしたいのは、「生活お役立ちガイド」という冊子である。高齢者に関する情報がイラスト入りで大変わかりやすく、文字も大きく多方面の情報が掲載されている。高齢者のお出かけ先として、生涯学習センターなどが居場所づくりとして紹介されている。また、おひとりさまアンケートは毎年違う傾向で実施されている。映画鑑賞やウォーキング、バスツアーなどにも期待が寄せられている。同市の意向として、なるべく受け身のイベントにしないことで、例えば映画鑑賞の時に終活個別相談を受け付けるなど行っているのが大変工夫されている。この条例により、外出や他者との交流頻度が上がっているとは言えないとのことだが、出前講座等の場では自立管理の必要性の認知度が上昇するということが分かっているそうである。今後おひとりさま支援は全庁的な政

策をすることも必要だとのこと。また、要介護になったら福祉サービスという対応にすべきであるというまとめであった。同様に同市の特徴的施策である遺贈寄付の支援制度（亡くなった時に、市が財産を処分できるというもの）についても、本市としてもっと研究する余地があると感じる。電話による「やまと24時間健康相談」というシステムがあるというのも良い。月100万円の外部委託となるが、高齢者にとって安心なことではないかを感じる。

・大和市は以前より綾瀬市との熾烈な東名高速垂れ幕対決で気になっていた。「70代を高齢者と言わない街大和市」「日本一図書館の街大和市」「健康都市やまと」等のキャッチフレーズを掲げているユニークな自治体というイメージに加え、人気イラストレーター及川正通（大和市の図書館シリウスの壁に8メートル四方の巨大なイラストを描く）が住んでおり、旧米軍ハウスに若者が集まるアートビレッジみたいな街をイメージしていたが、実際には首都圏までアクセスの良いベッドタウンである。ご多分に漏れず高齢化問題はあるようで、特に一人暮らしの増加を懸念していた。孤立と閉じこもり傾向が重積し健康に悪影響を与えることを防ぐという政策課題に対し、「おひとりさま支援条例」にて高齢者と言わないおひとりさまの出かける機会を創り、フレイルや要介護に陥らせない健康寿命延伸の取組を行っていた。エビデンスに基づいた、市民に納得していただける政策を行うには、アンケートなど調査を業者任せにしないことだと担当者は言い切る。その中で「おひとりさまが好んで『おひとりさま』をしているのだから、ふれあいの場とか要らない」、「映画でも見て一人で人生楽しんでいる方がよっぽど良い」という意見を拾い上げている（パブリックコメントにも同様な意見があったとのこと）おひとりさまに、映画会、落語会の案内を送り、その上映・上演のテーマに終活や葬儀などを織り交ぜ、その後、おひとりさまの悩みや不安の相談に乗るなどの寄り添う施策が展開されている。この事業の効果を今後も注視していきたいと考える。

・大和市の高齢化率の推移、高齢者世帯におけるおひとりさまの世帯率を分析され、孤立や閉じこもり傾向が健康に与える影響を考慮し、おひとりさまの健康に焦点を当てた「おひとりさま支援条例」が制定された。理念条例であることより、自覚を促すことが重要であり、その為の普及啓発としての出前講座、相談窓口、おひとりさまサロン、生活お役立ちガイド・アンケートを行っている。中でもアンケートは、担当課内の4人で集計作業することで分かることがあると伺った。委託に出してしまいがちなところからも情報を得ることで、わかることが多いと気づかされた。本市においても、まずは分析をすることから始めたいと感じる。今回のような視点は、分かっているようで分からなかった課題である。

・参考になった点として、①高齢者のおひとりさま世帯率の高さを課題として危機感を感じ、専属の組織を立ち上げ、係から課に整えたこと。また、おひとりさまの役割も明確にするなどし、条例化も進めたこと。

	<p>②アンケートについては、委託業者に出さず、分析も含め少数精鋭で集約をすることにより、数値的な分析だけでなく、属性のつながりも把握することで、具体的な施策につなげている。また、その内容も市として次につなげる戦略も反映している。③参加者の心情も理解し、その場限りのつきあいの場をどれだけ増やせるかの観点で、事業推進をしている。④一つの事業から、他の施策までを結びつけ、面的活動として取り組まれている。⑤最終的には、おひとりでも元気で年を重ねられる重層的支援となっていた。本市も同様な状況と考え、おひとりさま世帯に着眼した支援策は重要と感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市化が進み、コンビニエンスストアのような街であるため、おひとりさま率が高いとのこと。いずれ本市もそのようになっていくと思われる大変参考になるものと感じた。また、傾向として、男性の方が社会的交流の機会が少なくなりがちなので、おひとりさまが問題となりやすいというのもうなずけることであり、老人クラブなど地縁性や継続性の高い集まりより、その場限りの集まりの方を望む傾向がある。その点では、70代までの多くが利用しているスマホアプリを活用するのも効果的であると思う。条例の制定に先駆け、課が設置されているとのことだが、条例の裏付けを得たことで、あらゆる施策をおひとりさまでも利用しやすいかという視点から、事務事業評価を全庁的に進めやすくなってきたとのこと。人口減少等により施設やサービスの集約や共用が必要になってくると、もともとの目的ごとの評価ではなく、あらゆる視点での評価が必要になってくると改めて感じた。 ・大和市は、都心より40キロメートル圏内にあり、面積27.09平方キロメートル、人口242,567人。対して本市は名古屋から40キロメートル、面積387.2平方キロメートル、人口383,72人。本市の独り暮らしは確実に増加しているが、現状把握は出来ているか。当委員会で状況調査を提案する。
<p>委員長の総括</p>	<p>どの自治体においても人口構造の高齢化は避けられないものである。事実を把握した多方面にわたる対策を実施していくことが重要と考えている。</p> <p>年齢を重ね、自宅に引きこもり、地域や人との交流が減ることにより、体調への悪影響もあると考えられる。もっと活動出来る能力を秘めており、活動することで彩りある人生を過ごすことが出来るはずと期待される。</p> <p>こうした高齢化の課題に向けて自治体として条例化によって明文化して背中を押すとともに、課題意識に対して取り組む姿勢を見習うべきものとする。</p>